

子どもたちに最高の学校給食を

～ 有機農業推進と持続可能な社会の実現へ～



茨城県常陸大宮市

① 常陸大宮市の概要

《沿革・人口・位置・地勢等》

- 常陸大宮市は、那珂郡大宮町・山方町・美和村・緒川村と、東茨城郡御前山村の5町村の合併により、平成16年10月16日に誕生し、現在、人口が約3万8千人となっています。
- 常陸大宮市は、茨城県の北西部、県都水戸から約20kmの八溝山地及び阿武隈山地の南端と関東平野周縁台地北端の境界部に位置し、東に久慈川、南に那珂川が流れ、市の約6割を山林が占めています。
- 市の東部には、JR水郡線と国道118号が通り、中央部には、国道293号、西部には、国道123号が通っています。
- 市の耕地面積は3,510ha(田1,660ha、畑1,850ha)であり、農家戸数は3,065戸です。
- 市の主要な作物は、水稻、ナス、ネギ、切り枝となっており、近年、甘藷の生産や、新規就農者を中心に、イチゴの生産が増加してきております。また、畜産業も盛んに行われております。



② なぜ今オーガニック給食か

子どもたちに最高の給食を届けたい

人の身体は食べ物でつくられています。育ち盛り
の子どもたちにとって、食事が最も大切であり、エネ
ルギー溢れる食を子どもたちに提供することは、私
たち大人の責任です。

これからの日本を担う子どもたちの健康を考えた
とき、子どもたちが学校給食で有機農産物を食べる
ことをきっかけに、保護者の食育への意識を高め、
家庭においても有機農産物を食事に取り入れてい
けるような環境づくりが必要と考えます。

③ 有機農業推進の取組とオーガニック給食化への経過

令和元年度	・(株)レインボーフューチャー(本社:筑西市) が三美地区に参入 5.5ha
令和3年度	・(株)カモスフィールド(本社:笠間市) が三美地区に参入 2.4ha ・常陸大宮市有機農業推進計画の策定
令和4年度	・ 有機農業の推進を事業化し、本格的に有機農業の推進を開始 ・(株)JA常陸アグリサポートが三美地区で有機野菜の栽培を開始 1.5ha ・(株)要建設(本社:水戸市) が野田地区で有機そばの栽培を開始 14.0ha ・ 学校給食で有機栽培により生産した野菜の使用を開始 6品目 4t ・みどりの食料システム法に基づく県計画において「三美地区」「鷹巣地区」を特定区域に設定
令和5年度	・(株)JA常陸アグリサポート、個人農家が鷹巣地区で有機米の栽培を開始 3.9ha ・11月5日 オーガニックビレッジ宣言 ・ 学校給食に有機栽培により生産したお米の使用を開始 約13t ・ 学校給食での有機野菜使用 7品目 約7t ・12月13日 鷹巣地区における 「有機農業を促進するための栽培管理に関する協定」認可
令和6年度	・有機野菜に親しむ食育推進事業開始 ・学校給食での有機農産物使用(10月末現在) 野菜 11品目 約6t ・学校給食での有機米使用予定 約20t ・11月8日、9日 第2回全国オーガニック給食フォーラムin常陸大宮開催

④ 有機農業を進めていく上で常陸大宮市が重視としたこと

1. 誰をリーディングプレイヤーとするか

中心経営体を作る → 大規模生産出来る農家 → JA子会社と企業体
その後、他の農業者へ波及させていく

2. どの農地で推進するか

最初から有機農業がしやすい場所を選定し推進
場所を選定したら、農地中間管理事業を活用し集約化

3. 関係機関等との連携をどうするか

県・市・JA と最初から連携。足りない知識や技術は外部に委託

4. 販路をどうするか

公共調達 / 市場 / 市場外流通

JAを中心とした出荷 / 農家個人の商取引

小規模農家 : 学校給食や直売所中心の出荷

大規模農家 : 取引量の多い出荷先を中心に出荷し、学校給食や直売は小規模農家の補完

5. 個々の農家の営農形態

小規模農家 : 少量多品目

大規模農家 : 品目数を絞って大量生産

6. 耕畜連携の推進

地域内の未利用資源（家畜由来）の活用

⑤有機農業を促進するための栽培管理に関する協定について

みどりの食料システム法に基づく、特定区域に設定された鷹巣地区は、市内学校給食で使用する全てのお米を100%有機米とするため、有機米栽培のモデル地区として令和5年から作付けを開始しました。

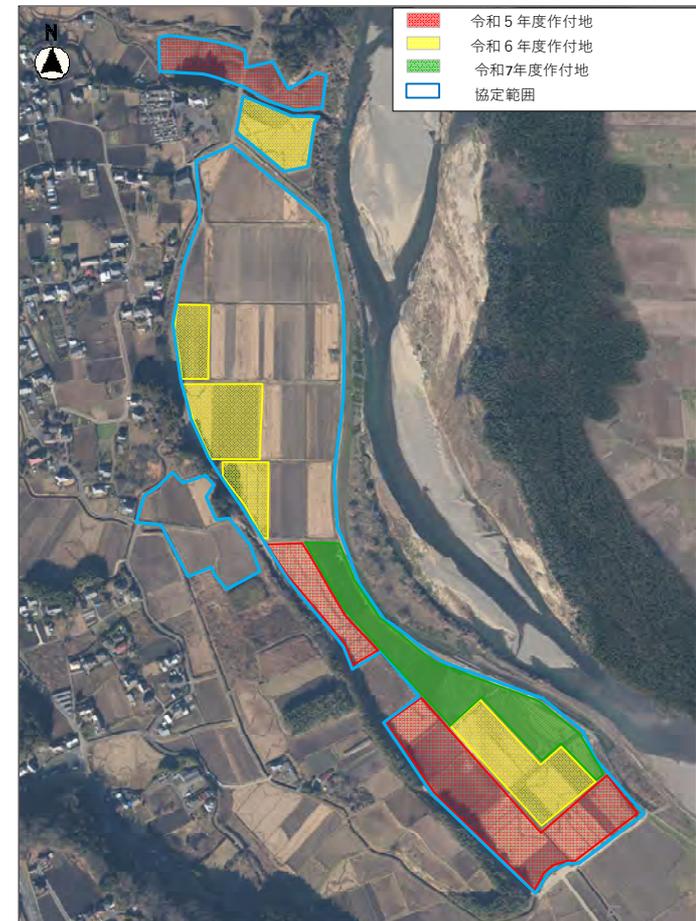
有機農業は、農薬の飛散防止や病害虫のまん延防止などに留意して取り組む必要があり、慣行農業を行っている農家との調整が必要です。このため、より良い営農環境を整えるため、有機農業／慣行農業それぞれの栽培管理について、区域内の農業を営む者同士が、「有機農業を促進するための栽培管理に関する協定」を締結し市長が認可しました。

【協定の概要】

- 協定名 : 鷹巣地区特定区域協定
代表者 : 鷹巣区長 小野瀬和夫
地権者数 : 75人 (うち1人は使用収益権による)
協定認可日 : 令和5年12月13日(水)
協定期間 : 5年間 (R5. 12. 13~R10. 10. 31)
協定エリア : 右図のとおり
協定面積 : 16.3 ha (132筆)
※鷹巣地区全体耕地面積 : 約113.0 ha
有機栽培目標面積 : 12.0ha ※令和9年度

【協定に定める栽培管理に関する事項】

- ①協定参加者は、農用地やその周辺部の適切な除草や施設の維持管理を行い、良好な営農環境の維持に努めること。
- ②有機農業を行う者は、病害虫発生抑制に努めること。
- ③慣行農業を行う者は、農薬散布に際し、飛散防止に努めること。
- ④協定参加者は、自身のほ場に重大な病害虫被害が認められた場合、代表者に連絡し被害を最小限に食い止めるための措置を講ずること。
- ⑤有機農業を行うほ場及び慣行農業を行うほ場が隣接している場合、有機農業を行う者は一定の緩衝地帯を設けること。



⑥ 常陸大宮市の有機農業の取組状況と今後の目標

《 令和6年度 現状 》

【有機JAS取得について】

- 人数 : 9名 (一部グループ認証)
- 面積 : 34.1ha
(田:3.9ha、畑:30.2ha)
- 品目 : 水稲、大豆、そば
ニンジン、ジャガイモ、玉ねぎ、甘藷、
大根、カブ、白菜、キャベツ、きゅうり、
ほうれん草、小松菜、キャベツ、
西洋野菜 等

【環境保全型農業直接支払の取組について】

- 人数 : 1団体 (9人)
- 面積 : 52.2ha
(田:7.2ha、畑:45.1ha)
- 内容 : 有機農業、堆肥の施用

【みどり認定の取得について】

- 人数 : 2名

《 令和10年度 目標 》

【有機JAS取得について】

- 人数 : 15名 (一部グループ認証)
- 面積 : 70.0ha
(田:30.0ha、畑:40.0ha)
- 品目 : 水稲、大豆、そば
ニンジン、ジャガイモ、玉ねぎ、甘藷、
大根、カブ、白菜、キャベツ、きゅうり、
ほうれん草、小松菜、キャベツ、なす、
西洋野菜、等、

【環境保全型農業直接支払の取組について】

- 人数 : 1団体 (15人)
- 面積 : 80.0ha
(田:30.0ha、畑:50.0ha)
- 内容 : 有機農業、堆肥の施用

【みどり認定の取得について】

- 人数 : 6名 (うち団体申請 1)



⑦ 常陸大宮市の有機農業の取組状況と今後の目標

◀ 有機農産物生産に係る支援及び連携等 ▶

【生産者への支援】

- ・施設・機械器具等の整備に対する補助
- ・生産性向上資材等に対する補助
- ・有機JAS申請書作成支援
- ・有機JAS認証費用等に対する補助
- ・栽培技術研修会等の開催
- ・個別営農指導の実施
- ・土壌診断に基づく土づくりの促進
- ・立地条件に適した栽培技術の検証

【販路拡大等について】

- ・公共調達（学校給食）の推進
- ・学校給食における自治体間の相互調達の推進
- ・販路拡大に係る業者等との情報交換
- ・県市町村やJAグループとの情報交換
- ・道の駅等でのコーナーの常設化
- ・加工品開発
- ・消費PR活動の実施
- ・食育としての収穫体験の実施

【地元との連携】

- ・畜産農家（法人）との耕畜連携
 - 有機JAS適合堆肥の生産
 - ペレット堆肥の製造
- ・慣行栽培と隔離した農地の確保
(ドリフト防止)
- ・農地集積・集約化への理解
- ・外部生産者受入に対する理解



⑧ 常陸大宮市のオーガニック給食実現に向けた取組状況と今後の目標

《給食概要》

供給先 : 給食センター2箇所
学校数 : 小学校11校、中学校4校
運営方法 : 調理委託
調理数 : 2,700食/日

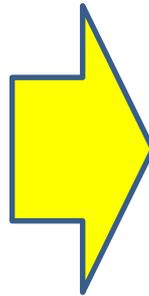
《令和4・5年の供給実績》

(令和4年度実績)

- ・野菜 : 6品目 4t
小松菜、ホウレンソウ、じゃがいも、
かぼちゃ、ニンジン、さつまいも
(うち有機JAS取得 : 2品目)

(令和5年度実績)

- ・野菜 : 10品目 7t ※12月まで
小松菜、ホウレンソウ、じゃがいも、
ニンジン、さつまいも、大根、かぶ、
白菜、レタス、玉ねぎ
(うち有機JAS取得 : 9品目)
- ・お米 : コシヒカリ 13t
- ・使用率(金額ベース)
野菜 : 約20% 米 : 約50%



子どもたちの笑顔のために
100%オーガニック
給食を目指します

《令和10年度の目標》

- ・野菜 : 出来る限り
- ・お米 : 有機米100% コシヒカリ 32t
- ・加工品 : 味噌、豆腐、醤油、パン、麺 等



⑨ 常陸大宮市のオーガニック給食実現に向けた取組状況と今後の目標

《問題点》

〈生産者〉

- ・天候により、給食に提供する時期や数量にズレが生じる
- ・低温貯蔵庫がないため、供給期間が限られる
- ・給食センターへの納品規格が定められており、納品規格外品が大量に発生する
- ・給食センターへの安定供給のため、過大に生産する必要があるが、残量の販売先がない

〈給食センター〉

- ・規格にバラツキがあると調理に時間を要する
- ・虫などの異物混入に対し、慣行栽培品以上に注意を払う必要がある
- ・包丁を入れると、病気等により腐っている野菜が、慣行栽培品よりも多い
- ・約2か月前に献立を作成する必要があるが、収穫時期のタイミングを考慮する必要がある

《解決に向けて》

〈生産者〉

- ・予定していた野菜が出荷できなくなった時は、JAが代替品の手配をして納品
- ・低温貯蔵庫の建設について検討
- ・給食を主軸とした作付けではなく、市場等出荷を主軸とした作付けを検討

〈給食センター〉

- ・調理業務委託について、有機農産物の取扱い含む設計を検討
- ・栽培品目や出荷時期の把握、課題解決にむけた関係者間の打合せをより密に実施
- ・地産地消や有機農産物の積極的使用を図るため、給食コーディネーターの配置を検討

⑩ 関連する取組

子育て世帯への有機農産物の配付

(事業名:有機野菜に親しむ食育推進事業)

- ・乳児検診時や市内教育・保育施設に、食育を目的として有機農産物を配付しています。

循環型農業を目指した耕畜連携の推進

- ・畜産(牛・豚・鶏)が盛んな地域であることから、家畜排せつ物から優良堆肥を作ること、そして、その堆肥を使うことにより、地域全体で化学肥料の使用低減を推進しています。
- ・市内で生産された飼料用米をはじめとした飼料の生産を推進しています。

地力増進作物の導入推進

- ・地力増進作物(麦)を配布し、土づくりの取組を推進しています。
- ・試験圃場を設け、導入効果について検証し、普及に努めています。

令和4年度の事業開始からの軌跡

首長の熱い思いと決断

JA常陸の深い理解と全面的な協力

JA常陸アグリサポートの決断

地域住民の子どもたちに対する思い

**熱い思いがあれば出来る！
やれば出来る！**

⑫ 有機農業の推進とオーガニック学校給食実現の先にあるもの

- **オーガニック学校給食をきっかけとした食育意識の向上**
- **儲かる農業の実現による笑顔あふれる地域づくり**
- **環境負荷低減と循環型農業による持続可能な地域の実現**

⑬オーガニックビレッジ宣言

オーガニックビレッジ宣言はスタート

常陸大宮市は、有機農産物の生産から消費まで、地域全体の取組として、学校給食のオーガニック化と、有機農業の取組を推進します。

この取り組みを茨城県から全国へ

学校給食のオーガニック化は、常陸大宮市のみの活動では実現できない。

思いを同じくする自治体をはじめとした関係者間の連携を図っていきたい。



茨城県常陸大宮市



「子どもたちに最高の給食を届けたい」この思いから、令和3年度に常陸大宮市有機農業推進計画を策定し、今現在、「茨城県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本計画」における「特定区域」に設定された有機農業モデル団地を中心に、市内での有機農産物の生産を加速化させています。

食は、身体と心をつくる生命の源であります。安全で安心な食を提供していくことは私たちの世代に課せられた重要な使命であることに加え、今や世界の趨勢となったオーガニックへの大きな流れは、人々の健康と持続可能な農業の振興に必ずや貢献していくものと確信しております。

常陸大宮市はオーガニック学校給食実現をきっかけとして、生産者と消費者それぞれの理解と連携を深めつつ、その先にある有機農産物の生産から消費までを地域全体で推進する取り組みを全力で展開することを誓い、ここにオーガニックビレッジ宣言をいたします。

令和5年11月5日

常陸大宮市長